

お手持ちのパソコンで議会中継をご覧いただけます。録画でもご覧いただけます。

議会だよりのご意見・ご感想などを議会事務局までお寄せください。

追跡

— あの質問のゆくえ —

防災計画と課題は

町は防災体制の強化に努め防災計画も策定してきたが、7月の集中豪雨の現状把握による課題と対応をどのように考えているか。

平成25年9月議会

所管
答弁

地域の実情に合った防災計画が急務

想定していない小さな河川や急傾斜等の多数にわたり被害が同時に起きたことと、マンパワーが不足し情報伝達など当初計画どおりにはすすめられなかった。今後は地域の実情に合った対策をし、新しい視点での地域防災計画の改定が急務と認識している。

どうなった



豪雨により河川が氾濫し危険な状態

平成26年度白鷹町防災計画では、地域の実情にあった地区別計画の項目を追加し、地区単位の「共助」による自発的な防災活動により防災力の向上を図り災害に対応するよう改定しました。

また、現在の情報伝達手段の一つである音声告知システムは各学校・地区公民館・保育園など21ヶ所に受令機を設置、各地区公民館からは屋外拡声器棟を整備し災害に関する情報を伝達してきました。27年度に町内12ヶ所に屋外拡声器棟を増設し情報伝達範囲の拡大を図っていきます。

さらに、消防団及び自主防災組織との連携を深め、ハードとソフトを組み合わせた防災対策を実施します。

町民の声

この冬の積雪量の多さに驚かされたばかりだ。最近空き家が何件か崩れているのを見かけた。

町でも空き家についての検討は行っている様子。空き家の対応に苦労しているようだが、なんとか活用する方法はないものなのか。高齢者の憩いの場、子供たちの学習や集いの場など荒砥高校生も関わりながらお互いに高め合う。また、町外から白鷹町の体験をしていただく活動拠点や宿泊施設として、そして将来への移住へ繋げていく。それにはやはり法整備とマンパワーが必要。

空き家は取り壊す事だけではなく、活用する事によって人が育ち、地域が育ち、町が育つ。その活用した利益で不要な空き家の整備が行えるのではないか。持ち主も借りる方も町もWin-Winでみんな笑顔。そんなサイクルが住み良い町づくりの一步にならないだろうか。

(中山 40代男性)



編集後記

昨年度は2年続けた豪雨災害や大瀬地区の地すべり、そして豪雪という本町にとって災害に見舞われた大変な1年でありました。

4月は統一地方選挙、町議会議員選挙も予定されています。災害復旧や人口減少問題など町が取り組む課題は数多くあります。政策の実施過程に多面的に参画し将来の白鷹町がより良いものとなるため、町民の代表として町政に携わる議員皆様のご活躍に期待します。

春は卒業や入学、退職に就職など新しい出発の季節です。新たな一年の出発に襟を正し、心機一転励んで参りたいと思います。

(議会事務局)

広報委員

委員長 佐藤 京一
副委員長・編集長 山田 仁
委員 小口 尚司
委員 新野 いく子
委員 奥山 勝吉
印刷・(有)梅津印刷



発行責任者 白鷹町議会 議長 今野 正明 編集 議会広報特別委員会

〒992-0892 山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲833番地 電話 0238-85-6135 FAX 0238-85-2128

E-mail gikaijimu@so.town.shirataka.yamagata.jp HP <http://www.town.shirataka.lg.jp/gikai/>